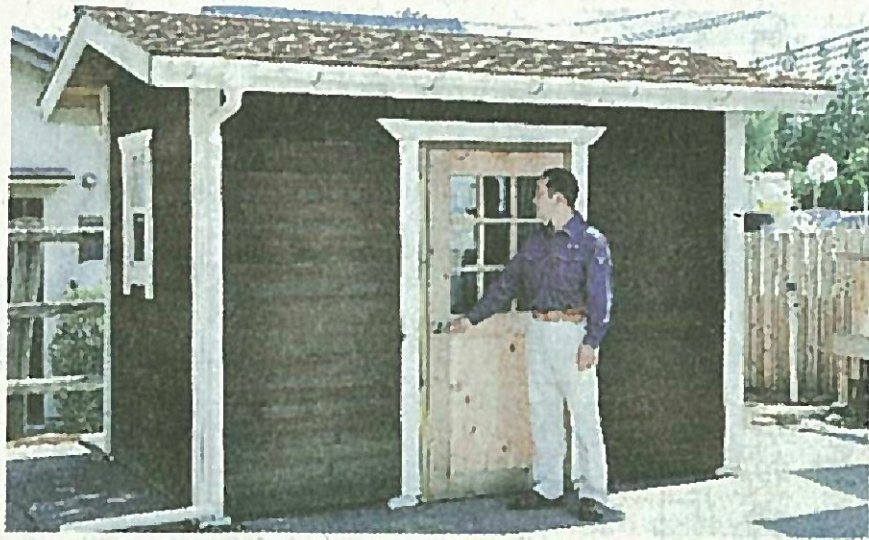


県産スギ間伐材の物置開発

ランバーテック



ランバーテックが開発した県産スギ材の物置。木製の味わいをアピールする＝松本市

木造建築のシロアリ防除を手掛けるランバーテック(松本市)は、県内産のスギ間伐材を使った木造の物置小屋を開発した。木材防腐処理のノウハウを生かし、耐久性を向上。家庭菜園の収納やオートバイの車庫用など、趣味を重視する消費者を想定し、今秋をめどに発売する。

木を腐らせる菌の活動を抑える薬液を専用機械でスギ材に注入し、外壁に利用。通常の木材は2

家庭菜園の道具やオートバイなど収納に

3年で腐り始めるが、処理後は30年以上腐らず、シロアリ被害も防げるという。

現場で組み立てやすいツーバイフォー(壁組み工法)を採用。無垢材を耐力壁に使い、同工法で一般的な合板の施工より低価格化した。屋根にも木板を使っている。

菜園など家庭で楽しむ趣味の広がりに伴い、小規模な収容スペースの需要は増えているといい、同社は農機具倉庫や書斎などの用途を想定。丸山淳治専務は「スチール製と違う木製の味わいをPRし、趣味のニーズを取り込んでいきたい」としている。

標準タイプ(縦1・8坪、横2・5坪、高さ2・2坪)は本体価格38万8500円。大きさは変更可能。共同開発したエクステリア施工のアイザックデザイン(安曇野市)と販売でも提携、県内外で年間200棟の販売を目指す。